



崇城大学 学長 中山 峰男

## 「地方創生を支える学生ベンチャーの育成」

「地方創生」の目的は地方の活力ある再生を図ることにより人口減少を食い止めようとするところにあるが、その成果はなかなか見えてこない。熊本県においては、人口減少の大きな要因として若者の県外流出と出生率の低下が指摘されている。従って、若者の県外流出を防止し、若者を県外から呼び込むことが極めて重要な課題となる。

熊本県は他県に比べ多くの大学が立地しているため、若者を比較的多く集め得る環境にある。しかし、残念なことに熊本は若者にとって魅力ある都市になっていないようであり、各大学とも学生募集に苦勞しているのが実情である。若者が求める都市の姿は活気と多様性であり、今後桜町再開発や熊本駅ビル開発など複合都市開発が進行することにより、若者を引き付ける都市へと変貌してくれることを期待したいと思う。とは言え、大学も他力本願では情けない。全国の学生から目指されるような大学になるよう努力しなければならない。

以前は本学にも全国から入学生が集まって来たが、少子化の進行とともに県外からの入学生は徐々に減少していった。本学ではこのことを深刻に受け止め、学生にとって魅力ある大学を目指し、十数年前から100項目にも上る様々な大学改革を断行してきた。改革の基本は、学生が楽しく、有意義な大学生活を送りつつ、個性を大切にし、感性と創造性を育み、自らの夢と志を見つけることができるよう促すことである。その一つが、起業家精神の養成である。

実は、昨年3月開催の「第13回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」において、本学の学生が最優秀賞の文部科学大臣賞を受賞した。本大会は内閣府や文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会等が後援しており、全国の学生が挑戦する最も権威ある大会である。その頂点に本学の学生が立った。

本学は数年ほど前から、「ベンチャー起業論講座」を開設し、毎年400名以上の学生が受講している。その起業を目指す学生たちが全国で行われる様々なベンチャーコンテストに挑戦し、数多くの入賞を果たした。お陰で、本学は今や起業家育成の大学として、その名声を全国に高めている。このような実績が評価され、他県からの入学志願者数は6割を超えるまでに回復した。因って、他県から若者を呼び込むという点については、一定の役割を果たせていると認識している。

しかしながら、若者の県外流出についてはこれからであり、起業を目指す学生たちが挙って熊本に残り起業してくれることを期待したいと思う。そのため、本学は学生起業向けのファンド会社を設立し、学生の起業支援を行っている。